

## 報告の成果と課題

小澤 藍

今回の発表は、チャド共和国と中央アフリカ共和国(フランス語圏中部アフリカ)におけるEU 平和維持部隊の展開について、公開一次資料および現地報道の緻密な分析を加えることにより、冷戦後の世界秩序が抱える構造的な安全保障の問題を提起した。具体的には、ダルフルールおよび中部アフリカの複雑な地域情勢、フランス外交、EU 内政治、国連安保理における議論、国際人道支援の展開を明らかにした上で、平和維持部隊の任務(マンデート)が人道支援に制限されることから逆説的に生じる民軍関係の危機という、国際法にかかわる普遍的な問題へと敷衍した。今回の発表は、報告者の2年間にわたるアフリカ駐在の経験を、公開資料の分析と在外研究を経て共編書として刊行する直前に報告したものであり、参加者の反応から一般読者の反応を予測するものでもあった。研究会にはEUに関心を持つ15名程度の参加者があったが、フランスもしくはアフリカ地域を専門とする参加者がいなかったことにより、かえって質疑応答において、地域情勢、外交、グローバルな安全保障について基本的かつ根本的な質問に答える形で、世界秩序全体の問題を共有する機会となった。報告を通じ、論旨および内容がすべての参加者に的確かつ十分に伝わったことは、本論の一般読者に対するメッセージ性の強さを確認できた大きな成果であった。活発な質疑応答においては、アフリカが抱える根深い諸問題、それに対するEU および国際社会の取り組みと外交努力、ならびに戦後国際秩序が抱える構造的な課題について、建設的な議論をおこなうことができた。一方、現場が提起する問題を頭越しにし、理論の扱いや現実の理解を誤ったいくつかの質問については、構造から丁寧に説明し論点を整理する必要があった。こうした議論は、今後の論壇や教壇において他者との対話を深め、自らの研究の方向性を探っていく上で役立てていきたい。